

< 目 次 >

- 1 【 実践事例 】 「長内中学校実践区（久慈市）」《家庭学習》
 - 2 【 家庭学習 】 読書活動と家庭学習のススメ
 - 3 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 4 【 みんなの声 】 ペっこ言い隊
 - 5 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
-

1 【 実践事例 】 「長内中学校実践区（久慈市）」《家庭学習》

今年度も、県内各地域において取り組まれている「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」についての実践事例を紹介していきます。

第 1 回は、久慈の長内中学校実践区です。長内中学校では、宿題以外に 1 時間の学習を「まなびフェスト」としています。家庭の励ましと地域の評価のもと、独自の家庭学習ノートを 1 日 2 ページ・年間 10 冊取り組むこととしています。事例は⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_osanai.pdf

2 【 家庭学習 】 読書活動と家庭学習のススメ

5 月 14 日に開催された「市町村担当者研修会」における松尾弘一先生（岩手県社会教育委員・議長、元県立図書館長）の講話の要点をまとめてみました。松尾先生からのメッセージを今一度ご確認ください。

『全国学力テスト等で調べる「学力」とは、知識・理解・技能や思考力・判断力・表現力といった計測可能な学力＝「見える学力」であり、「文字言語（書き言葉）」によって表現されたペーパーテストに「文字言語」で回答するものです。

すなわち、文字で表現された文章を理解したり、操作できる能力の高低が、「学力」の高低に大きな影響を与えるのです。「音声言語（話し言葉）」は、母国語の中で生活していると自然に身につくものですが、「文字言語」は読み・書きといった意図的な学習が必要であり、文字にふれさせること（読書）が大切です。

読書には、3 つの段階があります。第 1 段階は、「音声言語」として耳に入った情報をイメージ化する『読み聞かせ』です。ここで、本のおもしろさに触れ、自ら読もうとする意欲を育てます。

第 2 段階は、文字を目から入れ、イメージ化し、口で表現し、音を耳から入れ、イメージを確かなものにする『音読』です。脳をもっとも活性化させ、前頭前

野の発達に有効であり、子どもたちにとってとても必要な活動です。

第3段階は、目から入った情報をイメージ化する『黙読』です。音読に比べると脳の働きは単純ですが、たくさんの情報を迅速に処理する必要があります。「学力テスト」で必要となるのはこの『黙読』であり、たくさんの音読をするによって身につくものです。

映像（テレビやゲーム）ばかりで育った子は、文章をイメージに転換する能力（読解力）が著しく遅れています。この文章をイメージ化する能力が未発達では、テストの問いを読んでも、何が問われているのかがわからず、回答を書くことができません。また、回答もまた「文章表現」が要求されます。これでは、学力向上は望めません。

そこで、家庭学習として、「子どもが読んで、親が聞く」親子読書をすすめて欲しいと思います。これは、「1日1回、10分程度、子どもが親に本を読んであげる」というものです。あまり本を読んでいない子どもでも、10分くらいなら、毎日続けることができます。

居間で、親がそばについてあげ、読み終わったら「上手に読めたね」など、褒めてあげると、読書の習慣化にもつながります。また、子どもはいい気分のまま、ドリルや復習に入っていくことができます。家庭学習は、ドリル的な学習を中心とし、復習により学習内容の定着を図るものが良いでしょう。

こうして家庭での生活時間帯の中に、読書と家庭学習の時間を位置づけ、習慣化し、生活リズムを確立させて欲しいと思います。』

3【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

- （教ちゃん）6月に入って、今年も県内各地で「教育振興運動推進研修会」がおこなわれる季節になったわね。
- （振ちゃん）うん。盛岡地区では、国立病院機構仙台医療センターの小児科医長 田澤雄作 先生による講演がおこなわれたんだ。
- （教ちゃん）全県共通課題や家庭生活のあり方を、テレビやゲームの影響という医学的な視点から地域や学校の皆さんに訴えたのね。
- （振ちゃん）そうなんだ。子どもたちから笑顔が失われ、慢性的に脳が疲労しているのは、テレビやゲームの影響が大きく、またメディア漬けの子どもはコミュニケーション障害となりやすいというんだ。
- （教ちゃん）そうね。食事中にテレビを見ていたり、テレビゲームをさせていれば、おとなしくしていて手がかからないからと、親子のふれあいや語らいの代わりに子どもの相手をテレビやテレビゲームにさせていたら心配よね。
- （振ちゃん）テレビやテレビゲームをしている時の脳は、興奮しているけど、思考はしていないんだって。だから、余計なこと考えないで済んで気分転換にはなるけど、嫌なこと考えないですむので逃避したり、考えられない・感じない脳になっちゃう心配があるんだって。

(教ちゃん)だから、表情に乏しく笑顔がなくなっちゃうのね。怖いわ～。

4 【みんなの声】ぺっこ言い隊

5月は運動会の季節。中学校は先々週でしたが、小学校は今度の土曜日です。子どもたちは「運動会は嫌い」と、毎日帰宅する度に母親にこぼすそうですが、たとえ走るが遅くても、点数の掲示板をつくるとか、玉入れやチャンスレースの道具をつくるとか、運動会までの過程も重要なんだよと、前向きな気持ちになれるような会話を努めています。

とは言うものの、私自身、仕事に行きたくない日もあるし、子どもたちに話した言葉を自分自身で噛みしめる今日この頃です。(H町 Cさん)

⇒ 結果ではなく、精一杯やっている姿を認めてあげたいですよ。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

5 【編集後記】あつしのひとりごと

6月5日(土)、県北青少年の家を会場に「中・高校生のための読書ボランティア研修会」をおこなってきました。(6月6日「岩手日報」に記事掲載)53人の中学生・高校生・看護学院生・大学生が参加し、読み聞かせの実習や実演や「中・高校生にお薦めの1冊」についての意見交換をおこないました。

お薦めの1冊では、自分と同世代の主人公に共鳴したり、命の尊さについて考えさせられたりといった本が紹介されて、感受性が強い中・高校生のピュアな感性に触れ、うれしい気持ちになりました。若いうち、素晴らしいな～!

⇒ 第23号は、6月22日(火)配信です。

★平成21年度配信のバックナンバー(第1～17号)はこちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index5.html>

★平成21年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index3.html>

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

～～～配信元～～～

* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士(さとう あつし)

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう!」という雰囲気をおあなたから作りだしてください。

～～～